

平成28年度 第4回 COC 実施本部会議 議事録

平成28年9月21日(水)

14:20~14:58

場所:本部大会議室

出席者:清水学長、齋藤教育開発センター長、田浦学生部長、岡野研究開発推進センター長、西谷事務局長、木村企画部長、森地域連携推進担当課長、山村学生支援部長、中井教務担当課長

【議 題】

1. 「伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」と「伊勢志摩共生学」の秋学期開講について
清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

◆伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅱ(履修者数:51名)

回	日付	学修内容(課題)	担当
1	9/21	ガイダンス	本学教員
2	9/28	地域文化と観光	板井正斉 准教授/伊勢市、大紀町など
3	10/5	伊勢志摩の歴史観光資源の活用事例	千田良仁 准教授/鳥羽市
4	10/12	伊勢志摩の公共政策	千田良仁 准教授/玉城町
5	10/19	外国人と観光	板井正斉 准教授/伊勢市、鳥羽市、志摩市
6	10/26	伊勢志摩の中山間地域の農業	近藤玲介 准教授
7	11/2	テーマの振り返りワークショップ【中間】	本学教員
8	11/9	伊勢志摩の地域ビジネス	千田良仁 准教授/鳥羽市、志摩市
9	11/16	多文化共生と定住	板井正斉 准教授/伊勢市
10	11/30	伊勢志摩における海洋資源の活用	近藤玲介 准教授/鳥羽市、志摩市
11	12/7	伊勢志摩の地域イノベーション	千田良仁 准教授/南伊勢町
12	12/14	地域課題発見法	池山 敦 助教
13	12/21	地域課題解決法 ①アイデア創出法	池山 敦 助教
14	1/11	地域課題解決法 ②対話・ファシリテーション	池山 敦 助教
15	1/18	まとめ	本学教員

◆伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅲ(履修者数:4名 ※内、社会人2名)

回	日付	学修内容(課題)	講師
1	9/28	地域資源利用1「農林水産業の現状と地域産業振興Ⅰ(農業)」	別府 孝文 氏 (株式会社三重銀総研 調査部副部長 主席研究員)
2	9/28	地域資源利用2「農林水産業の現状と地域産業振興Ⅱ(林業)」	
3	10/12	地域資源利用3「農林水産業の現状と地域産業振興Ⅲ(水産業)」	
4	10/12	地域資源利用4「農林水産業のトピックと関連組織・産業」	
5	10/26	加工1「食品加工論」	
6	10/26	加工2「食品の栄養機能/安全衛生管理」	
7	11/9	生産・加工・流通1「フードシステム論Ⅰ」	
8	11/9	生産・加工・流通1「フードシステム論Ⅱ」	
9	11/30	メニュー開発 「フードコーディネート論」	
10	11/30	新事業創出「物質・エネルギー利用型地域資源利用論」	
11	12/14	新事業創出「地域資源利用とツーリズムⅠ」	
12	12/14	新事業創出「地域資源利用とツーリズムⅡ」	

13	1/11	新事業創出「地方創生と農林水産業」	
14	1/11	今後を展望するキーワード	
15	1/18	まとめ	

◆伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅳ(履修者数:2名 ※内、社会人1名)

回	日付	学修内容(課題)	講師
1	9/21	ガイダンス「6次産業化とは」	伊藤 公昭 氏 (株式会社三重銀総研専務取締役コンサルティング部長 /主席コンサルタント)
2	9/21	1次産業が抱える問題点	
3	10/5	6次産業化の現状	
4	10/5	外部環境認識	
5	10/19	顧客満足	
6	10/19	マーケティングⅠ「基礎知識」	
7	11/2	マーケティングⅡ「事例に学ぶ」	
8	11/2	行政機関の支援策	
9	11/16	会計の基礎知識	
10	11/16	「地域団体商標制度」と「地理的表示保護制度」	
11	12/7	「総合化事業計画の作成」「プレゼンテーションの仕方」	
12	12/7	三重県内及び国内の取組事例	
13	12/21	「TPPについて」・「農業・6次産業化の輸出事例」	
14	12/21	当地における6次産業化のブランディング	
15	1/18*	まとめ	

◆伊勢志摩共生学(旧伊勢学)(履修者数:747名 1年必修 ※内、過年度生は44名)

回	学修内容(課題)	担当者
1	ガイダンス	齋藤 平 教授
2	伊勢志摩の観光	板井正斉 准教授
3	伊勢と国学	高倉一紀 教授
4	地域福祉	山路克文 教授
5	社会教育	岡野裕行 准教授
6	学校教育	市田敏之 准教授
7	体験的学修による課題解決の事例	池山 敦 助教
8	地球史の中の伊勢志摩	近藤玲介 准教授
9	公共交通	笠原正嗣 教授
10	伊勢志摩の自然環境	近藤玲介 准教授
11	伊勢志摩の地域経済とコミュニティ	千田良仁 准教授
12	自治体とガバナンス	岸川政之 教授
13	伊勢志摩の地域資源と産業特性	千田良仁 准教授
14	自治体と行政サービス	講師 伊勢市長
15	建国記念の日と伊勢	清水潔 学長

「伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ・Ⅱ」については、今年度末にテキストの作成をする。各回授業が終わるとその内容をpptスライド1枚にまとめ、教材用として蓄積していく。また、「伊勢志摩共生学」については、従来はレポート提出等各回、担当教員でやり方が異なっていたが、これからはmanaba上で一括管理する。

昨年度は、科目Ⅱ:80名、科目Ⅲ:43名、科目Ⅳ:18名であり、今年度の履修者数から大きく減少している。昨年度は3講時に科目Ⅲを、4講時に科目Ⅳであったが、今年度はⅢとⅣを2講時連続授業で隔週開講の体制に変更した。科目Ⅲについてセンター教員でクラス分けをしたことで履修人数が割れたのではないか。今年度末に開催する「外部評価委員会」で、来年度に向けての履修人数について改善を求められるだろう。

<質疑応答>

(問)履修したいが、できないのか。

(答)履修案内の段階で、センター教員のⅢとⅣをできるかぎり履修させたいと考えていた。社会人向けに開いている、というその案内が受講生の減った原因ではないか。センター教員の履修生も、5名と2名であるので、合わせても昨年度の履修生数には及ばない。10月4日の履修登録変更期間まで呼びかけていきたい。

審議の結果、異議なく了解された。

2. 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)平成28年度評価について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

日 時:平成28年9月27日(火)15:40~16:10

場 所:弘済会館 4階 蘭東(東京都千代田区麴町5-1)

出席者:清水学長、齋藤教育開発センター長、池山助教、木村企画部長、森企画担当課長

平成25、26年度に採択された大学の報告であり日本学術振興会が行う。共通質問事項として、「平成27年度より、COCの取組を踏まえたCOC+事業が開始されているが、どのように取組が接続し、発展しているか。」、そして、「事前質問票」に添って面接が行われる。既に、7月20日に指定様式の報告書を、日本学術振興会へ提出済である。

<質疑応答>

(問)面接評価の委員は何名なのか。評価区分は。

(答)情報なし。初めの採用審査の際、委員が3名と文科省職員が1名であったので、おそらく同じような体制ではないかと考えている。評価は、S・A・B・C・Dの5段階であり、Dだと事業打ち切りもある。

審議の結果、異議なく了解された。

3. 「伊勢志摩みらいづくり調査」実施について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

今年度は、圏域の中学3年生(32校)、高校3年生(13校)、大学1年生(本学)の合計5,349名にアンケートを行う。アンケートの概要については、伊勢市教育委員会と筒井教授、板井准教授で協議をした。今後、南勢志摩の校長会へ赴き説明する。

9月4日に開催したシンポジウムにて、筒井教授より、平成27年度に行ったアンケート結果を発表した。アンケートの中で、中学生、高校生と学年が上がるほど、「地元に戻ってきたい」、「地元で就職したい」との考えが増えていく傾向がある。また、大学・専門学校に進学先を決める上で最も重視することは?の質問に対し、「学べる内容や専門性」を重視しているとの回答が多数であった。

<質疑応答>

(問)本学3年生の秋学期にアンケートを行うのは、COC+の就職に対するアンケート、大学IRに関するアンケートが重なり、授業等に影響はないのか

(答)授業時に配付のみで持ち帰らせる方法を取る。回収は後日。中高生に関しても持ち帰らせる。

審議の結果、異議なく了解された。

4. CLL活動について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

第3回説明会を開催する。

日時:10月11日(火)12:25~12:55

場所:211 教室

①(伊勢市)伊勢シーパラダイス リニューアルプロジェクト

②(伊勢市)子供・お年寄向けの「ごみ分別ガイドブック」作成事業

①は、三重銀行を通じて申込みがあった。実施主体は、学生の参画によってイベント企画や水族館 PR への改善案の提案をお願いしたい。担当教員は、池山助教。

②は、伊勢市環境政策部から申込みがあった。既にゴミ分別ガイドブックがあるが、さらに分かりやすいガイドブックの作成をお願いしたい。担当教員は、齋藤教授。

CLL 活動の申し込みは、COC ホームページに掲載しており、用紙をダウンロードして記載、本学に申込み、の手順である。

< 質疑応答 >

(問)保険は加入しているのか。

(答)先方の保険がなければ、本学の学研災で対応。

審議の結果、異議なく了解された。

5. CLL 活動参加学生(学校行事参加者)、地域活動参加者追加

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

・大紀町木のおもちゃプロジェクト

審議の結果、異議なく了解された。

【報 告】

1. 第2回本事業取り組み内容公表シンポジウム開催結果について

参加者は、昨年度の 80 名を超える 90 名に来場いただいた。市民の方の参加が多かったが、一方で、学生の参加者が無かった。登壇者である若手行政職員の反応も良く、今後の仕事に役立てたいとの感想をいただいた。

* 次回日程

平成 28 年度 第 5 回COC実施本部会議は、平成 28 年 11 月 2 日(水)、本部大会議室で開催されることが確認された。